

研究ノート Note

鳥取県沿岸と周辺海域で記録された海洋動物(2014年～2017年)
— 鯨類, 鰭脚類, ウミガメ類, その他特筆すべき海洋動物について —

一澤 圭^{1*}・太田悠造²・田邊佳紀¹・榊山 匠¹・川上 靖¹

Marine animals recorded in the Sea of Japan around Tottori Prefecture from 2014 to 2017
— Cetaceans, pinnipeds, sea turtles and the other noteworthy marine animals —

Kei ICHISAWA^{1*}, Yuzo OTA², Yoshiki TANABE¹, Takumi SAKAKIYAMA¹ and Yasushi KAWAKAMI¹

Abstract: Marine animals, such as cetaceans, pinnipeds, sea turtles and the other noteworthy animals were recorded in the Sea of Japan around Tottori Prefecture from 2014 to 2017. Totally, 5 records of 5 species on cetaceans, 2 records of 1 species on pinnipeds, 14 records of 4 species on sea turtles, 9 records of 7 species on fishes, and 5 records on giant squids were listed. Comments on some notable records were added.

Keyword: cetaceans, giant squids, pinnipeds, sea turtles, stranding, the Sea of Japan, Tottori Prefecture

鳥取県立博物館では、鳥取県およびその近隣の海岸における大型海洋動物の記録を取り続けている(一澤ほか2014, 川上2002; 川上ほか2004, 2006, 2008; 川上・一澤2010, 2012)。大型の海洋動物は野生個体と人間との遭遇機会が限られるため、海中での生態がほとんどわかっていない種類も少なくない。こういった動物たちが海岸に漂着したり、漁網で混獲されたり、港湾内に迷入したりした際の記録は、断片的ながらもそれら動物の生態を明らかにする糸口となるため、その記録を蓄積していくことが重要である。

本報告は、2014年から2017年の間に当館が確認した、鳥取県および近隣域の沿岸において漂着・混獲・迷入があった大型海洋動物の記録である。ここでは海生哺乳類(鯨類および鰭脚類)および爬虫類(ウミガメ類)に加え、特筆すべき魚類およびダイオウイカ *Architeuthis dux* について記す。

■哺乳類

哺乳類では、鯨類5種、鰭脚類1種で計7件の記録があった(表1)。そのうち次の2件についてコメントを付しておく。

2014年3月25日に境港市新屋町に漂着したオウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* は、すでに衰弱した状態で発見され、まもなく死亡が確認されたものである(図1e)。個体は全身の削瘦が顕著であり、極度の栄養失調に陥っていたと見られた。そして露出した下顎歯には大量のミミエボシ *Conchoderma auritum* が付着しており、その周囲の皮膚には潰瘍が見られた(図1f)。ミミエボシは、鯨類体表の付着生物としてはよく見られる種類であるが、今回ほど高密度で付着した例はまれである。今回の事例は、内臓に死因につながる異常は認められなかったが、鯨類個体の健康状態と付着生物との関係を明らかにする上でも貴重なケースであったと思われる。

2016年5月7日から10日にかけて鳥取市青谷町に来遊したハンドウイルカ *Tursiops truncatus* では、興味深い行動が確認された。すなわち単独で浅瀬を遊泳し、ペニスを露出した状態でサーファー等の人間にこすりつけるような行動が繰り返し観察されたのである。これは自慰行動またはコミュニケーション手段の1つと考えられた。おそらくは自らの意志で浅瀬に来遊し、また去って行ったものと思われ、漂着や迷入とは意味

¹鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取市東町2-124

Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

*E-mail: ichisawak@pref.tottori.lg.jp

²山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館 〒681-0001 岩美町牧谷1794-4

San'in Kaigan Geopark Museum of the Earth and Sea, Makidani 1794-4, Iwami-cho, Tottori, 681-0001 Japan

[受領 Received 25 December 2017 / 受理 Accepted 5 February 2018]

合いが異なるものであるが、野外でのこのような観察記録は少ないと考えられるためここに記すものである。

■爬虫類

爬虫類では、ウミガメ類について4種14件が記録された(表1)。

そのうち、ヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* の漂着が2件あった事は特筆に値する(2014年2月12日米子市夜見海岸, 同年4月10日琴浦町赤碕: 図2j, k)。鳥取県での本種の記録は、筆者らの把握している限り、1975年に鳥取市伏野海岸で漂着した1例(清末1987)のみであった。今回は39年ぶりとなる本種の記録であり、また2例目、3例目の記録がわずか2か月の間に続けて起こった結果となった。

2016年12月3日、岩美町羽尾岬沖にある大敷定置網で、アオウミガメ *Chelonia mydas mydas* が混獲され、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館(以下、自然館)に持ち込まれた(図2d)。健康状態は良好であったが、冬季日本海は低温と波浪が著しく、放流するとかえって個体を衰弱させる恐れがあったため、自然館において一時保護することとした。保護の間はおもにワカメ *Undaria pinnatifida* やナガアオサ *Ulva arasaki* を給餌した。海水温が十分に高くなった2017年6月10日、個体の健康状態が良好であることを確認し、岩美町牧谷海水浴場にて放流した。

■魚類

魚類については、硬骨魚類5種、軟骨魚類2種の合計9件をリストにあげた(表1)。

2017年4月4日には、米子市淀江の定置網でシャチブリ *Ateleopus japonicus* が混獲された(図3e)。この個体は上下の顎に歯が認められ、かつてムラサキシヤチブリ *A. purpureus* とされてきたものに該当すると思われるが、近年では両者は同一種とみなされている(Kaga *et al.*, 2015)。本種は、日本海側での報告はわずかであり(河野ほか2014)、鳥取県では初の記録となる。

2015年8月7日には、鳥取市青谷町夏泊に設置された定置網でジンベエザメ *Rhincodon typus* が混獲された(図3g, h)。個体は全長6~7mで本種としてはやや小型であったものの、漁具が破壊される恐れがあったため、漁業者により慎重に沖まで運ばれ、放流された。本種の記録は、鳥取県では初である。

■ダイオウイカ

2014年から2015年にかけて、日本海側沿岸にダイオウイカの漂着・混獲が相次ぎ、報道等でも大きく取り上げられた。2015年3月までの記録については Kubodera *et al.* (2016) が詳細に報じている。本稿では、そのうち鳥取県内で漂着・混獲のあった4件と2016年に漂着があった1件について、当時の写真とともに記した(表1, 図4a-e)。

■謝 辞

公益財団法人動物臨床医学研究所の小笠原淳子氏、鳥取県立鳥取西高校の林耕介氏、鳥取大学農学部附属動物医療センターの川崎美苗氏、そして国立科学博物館の山田格氏、田島木綿子氏をはじめとする鯨類研究の関係諸氏には、漂着鯨類・鰭脚類の計測・解剖作業にご尽力いただいた。国立科学博物館の窪寺恒己氏、兵庫県立人と自然の博物館の和田年史氏、公立鳥取環境大学の徳田悠希氏、島根大学エスチュアリー研究センターの原口展子氏には、ダイオウイカの個体取得、計測・解剖作業、標本作製においてご尽力いただいた。沖縄美ら島財団の柳澤牧央氏には、アオウミガメの一時飼育やハンドウイルカの行動生態について貴重なご助言をいただいた。高知大学の齊藤知己氏には、アオウミガメの放流についてのご助言をいただいた。神戸市立須磨海浜水族園の石原孝氏には、ウミガメ類の種同定や標本の取り扱いについて有益なご助言をいただいた。株式会社徳田商店の徳田三明氏、徳田豪氏ならびにスタッフのみなさまには、ダイオウイカ個体の冷凍保管において多大な便宜を図っていただいた。大山町の白石泰志氏には、アオウミガメ漂着の情報とともに写真を提供していただいた。琴浦町教育委員会の林原克幸氏、琴浦町町民生活課の永代研一氏、鳥取市気高町地域振興課の田中俊行氏、そして石原幸雄氏、門脇慧史氏、野々村卓美氏をはじめとする鳥取県水産関連部署のみなさまには、発見された海洋動物についての情報提供や、各関係機関との連絡調整、そして動物個体の一時保管など、終始にわたって多大なご協力をいただいた。鳥取大学サークル・バードゲッターズのメンバー諸氏には、現地での解体作業からその後の標本処理作業に至るまで、多大なご協力をいただいた。鳥取県立博物館ならびに山陰海岸学習館(現:山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館)に在職または当時在職の安藤和也氏、大西真理氏、松岡卓司氏、三原菜美氏、米澤朋子氏には、漂着動物の解剖・計測作業や混獲動物の受け入れ対応、写真撮影等にご協力いただいた。以上の方々に、深く感謝の意を表す。最後に、

表1 鳥取県沿岸および近隣域に漂着した海洋動物と確認された日本海の稀な種（2014年～2017年）

大分類	種類	個体数	サイズ・性別	発見日	場所	発見時の状態	備考	
哺乳類	ミンククジラ <i>Balaenoptera acutorostrata</i> (鯨偶蹄目ナガスクジラ科)	1	体長: ca395 cm ※吻端・尾部に欠損あり 性別: オス	2015年4月29日	【漂着】琴浦町 筥津海岸	死亡	【図1a, b】/死後、数日以上が経過している模様で、表皮の大部分が欠損、数か所で骨が露出していた。胸骨の表皮は残存し、白帯が確認できた。体の一部を鳥取県立博物館にて標本化作業中。	
	ハナゴンドウ <i>Grampus griseus</i> (鯨偶蹄目マイルカ科)	1	体長: 291.8 cm ※尾部欠損あり 性別: オス	2017年3月17日	【漂着】鳥取市気高町 水尻海岸	死亡	【図1c】/表皮のほとんどが欠失。前肢の骨が一部露出・欠損。山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館にて標本化作業中。	
	カマイルカ <i>Lagenorhynchus obliquidens</i> (鯨偶蹄目マイルカ科)	1	体長: 200 cm 性別: 不明	2015年4月14日	【漂着】境港市新屋町 弓ヶ浜海岸	死亡	【図1d】/死後数日程度経過している模様で、表皮の一部が欠損。生殖器周辺が損傷しており、性別の判定が困難。	
	ハンドウイルカ <i>Tursiops truncatus</i> (鯨偶蹄目マイルカ科)	1	体長: 2.5~3 m(目測) 性別: オス	2016年5月7~10日	【観察】鳥取市青谷町 青谷海水浴場	生存	浅瀬を遊泳し、ペニスを出させながら人間に近づけるような動作が繰り返し観察された。自慰行動またはコミュニケーション手段の1つと見られる。	
	オウギハウジラ <i>Mesoplodon stejnegeri</i> (鯨偶蹄目アカボウクジラ科)	1	体長: 466 cm 性別: オス	2014年3月25日	【漂着】境港市新屋町 弓ヶ浜海岸	生存→死亡	【図1e, f】/全身高度の削痕。露出した下顎歯に大量のミエヒコシ <i>Conchoderma auritum</i> が付着しており、その周囲の皮膚には潰瘍が見られた。	
	キタオットセイ <i>Callorhinus ursinus</i> (ネコ目アシカ科)	1	(未計測) メス成獣と見られる	2015年2月22日	【迷入】鳥取市気高町	生存	【図1g】/海岸の消波ブロック上で休む様子などが観察・撮影された。	
		1	頭胴長: 210cm 性別: オス	2017年3月22日	【漂着】湯梨浜町 石脇海岸	死亡	【図1h】/後肢の骨が一部露出。鳥取県立博物館にて標本化作業中。	
		1	(未計測)	2014年8月5日	【混獲】鳥取市青谷町 夏泊	生存	漁網にて混獲。漁業者により放流。	
		1	標準直甲長: 54.0 cm 標準直甲幅: 42.9 cm 体重: 15.380kg 性別: メス	2015年4月8日	【漂着】米子市 夜見海岸	生存→保護→死亡	【図2a】/低体温で衰弱していたため、鳥取県水産試験場にて一時保護したが、その後死亡。骨格標本として鳥取県立博物館にて保管。標本番号: TRPM-ARA-000011。	
		1	直甲長: 47.9 cm 直甲幅: 41.6 cm 体重: 7.935kg 性別: メス	2015年5月28日	【漂着】岩美町 東浜	死亡	【図2b】/死後数日以上が経過している模様。鳥取県立博物館にて標本化作業中。	
爬虫類	アオウミガメ <i>Chelonia mydas mydas</i> (カメ目ウミガメ科)	1	甲長: 約70 cm(目測)	2016年9月4日	【漂着】大山町 逢坂港付近	死亡	【図2c】/背甲の表皮が一部剥離。	
		1	甲長: 50 cm (計測は2017年6月10日) 性別: メス	2016年12月3日	【混獲】岩美町浦富 大敷沖(定置網)	生存	【図2d】/山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館にて一時保護の後、放流。	
		1	(未計測)	2017年10月13日	【漂着】琴浦町 八橋海岸	死亡	【図2e】/背甲の表皮が一部剥離。	
		1	甲長: 約80cm(目測)	2014年2月16日	【漂着】鳥取市 小沢見海岸	生存	やや衰弱。地元民により海に掃かれた。右前肢の先端が欠損(治癒済みの古傷)。	
	アカウミガメ <i>Caretta caretta</i> (カメ目ウミガメ科)	1	直甲長: 91 cm 直甲幅: 87 cm	2014年7月29日	【漂着】琴浦町 赤碓港	死亡	【図2f】/日本ウミガメ協議会による標識あり(標識番号: 74370)。	
		1	(未計測)	2014年8月18日	【混獲】鳥根県隠岐	生存	漁具のロープに絡まっていたところを海上保安庁が救助し、一時保護の後、放流。	
		1	甲長: 約80 cm(目測) 甲幅: 約65cm(目測)	2014年9月下旬	【漂着】鳥取市気高町 姉泊海岸	死亡	【図2g】/一部の表皮が剥離。	
		1	甲長: 約90 cm(目測)	2016年6月21日	【漂着】鳥取市気高町 酒津海岸	死亡	【図2h】/頭部が一部破損。体の各所で表皮が剥離。	
	タイマイ <i>Eretmochelys imbricata</i> (カメ目ウミガメ科)	1	標準直甲長: 30.11 cm 直甲幅: 24.31 cm 体重: 2.257 kg	2015年2月7日	【漂着】琴浦町 八橋海岸	死亡	【図2i】/新鮮。	
		1	甲長: 54 cm	2014年2月12日	【漂着】米子市 夜見海岸	生存→保護→死亡	【図2j】/左後肢に裂傷あり。衰弱していたため、鳥取県水産試験場にて一時保護し、鳥根県立しまね海洋館アークスに搬送したが、その後死亡。鳥取県内での本種の漂着は、1975年以後の2例目。	
硬骨魚類(条鰭綱)	ヒメウミガメ <i>Lepidochelys olivacea</i> (カメ目ウミガメ科)	1	直甲長: 111.5 cm 直甲幅: 67.2 cm 性別: オス?	2014年4月10日	【漂着】琴浦町 赤碓 菊港	死亡	【図2k】/腐敗が進み、頭部・脚の一部が欠損。鳥取県立博物館にて標本化作業中。	
	ナグユメタチモドキ <i>Assurger anzac</i> (スズキ目タチウオ科)	1	全長: 253.2 cm 性別: メス	2016年2月5~6日	【混獲】隠岐海峡(まき網)	生存→死亡	【図3a】/鳥取県立博物館にて冷凍保管中。	
	リュウグウノツカイ <i>Regalecus russellii</i> (アカマンボウ目 リュウグウノツカイ科)	1	全長: 約190 cm(目測)	2014年3月2日	【漂着】鳥取市 白兎海岸	死亡	比較的新鮮ではあるが、頭部周辺に鳥につつかれたと思しき損傷が見られた。	
		1	全長: 410 cm	2016年1月25日	【漂着】鳥取市気高町 浜村海岸	死亡	【図3d】/新鮮でほぼ完全な状態だったが、尾鰭が欠損。	
	サケガシラ <i>Trachipterus ishikawae</i> (アカマンボウ目 フリソデウオ科)	1	全長: 152.5 cm	2015年3月8日	【漂着】鳥取市気高町 八束水	死亡	【図3b】/新鮮。	
		1	全長: 158 cm	2017年5月9日	【漂着】岩美町 羽尾漁港付近	死亡	【図3c】/新鮮。	
	シャチブリ <i>Ateleopus japonicus</i> (シャチブリ目シャチブリ科)	1	全長: 85 cm 体重: 1.620 kg	2017年4月4日	【混獲】米子市淀江(定置網)	生存→死亡	【図3e】/上下の顎に歯がある。鳥取県立博物館にて冷凍保管中。	
	ヤリマンボウ <i>Masturus lanceolatus</i> (フグ目マンボウ科)	1	全長: 70 cm	2017年1月7日	【混獲】岩美町浦富 大敷沖(定置網)	生存	【図3f】/山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館に持ち込み後、放流。	
	軟骨魚類	ジンベエザメ <i>Rhincodon typus</i> (テンジクザメ目ジンベエザメ科)	1	全長: 6~7 m(目測)	2015年8月7日	【混獲】鳥取市青谷町 夏泊(定置網)	生存	【図3g, h】/漁業者により沖合にて放流。鳥取県内では初の記録。
		アオザメ <i>Isurus oxyrinchus</i> (ネズミザメ目ネズミザメ目)	1	全長: 104 cm 性別: 未確認	2017年6月11日	【混獲】岩美町浦富 大敷沖(定置網)	生存	【図3i】/山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館に持ち込み後、放流。
軟体動物(頭足綱)		1	外套背長: 170 cm 全長: 340 cm(触腕含まず) 性別: メス	2014年1月20日	【混獲】鳥取市 青谷沖(底引き網)	生存→死亡	【図4a】/触腕欠損。岩美町網代港に水揚げされ、冷凍保管後、ホルマリン液浸標本として鳥取県立博物館にて保管。標本番号: TRPM-AMo-0001224~0001226。	
		1	外套背長: 120.8 cm 全長: 462.5 cm(触腕含む)	2014年3月4日	【漂着】琴浦町 赤碓	死亡	【図4b】/やや状態悪く、多くの腕がちぎれており、胴部が近隣住民によって切り開かれているなど損傷が激しい。触腕は1本のみ残存。	
	ダイオウイカ <i>Architeuthis dux</i> (開眼目ダイオウイカ科)	1	外套背長: 121.5 cm 全長: 637 cm(触腕含む) 性別: メス	2014年4月13日	【漂着】岩美町牧谷 吉田川河口	死亡	【図4c】/新鮮。触腕は2本とも残存。	
		1	外套背長: 180.5 cm 全長: 355 cm(触腕含まず) 性別: メス	2015年1月6日	【漂着】岩美町 大羽尾海岸	死亡	【図4d】/新鮮。触腕欠損。腕の一部および眼球、口器をプラスチック容器に封入し、鳥取県立博物館にて保管。標本番号: TRPM-AMo-0001224~0001226。	
	1	外套背長: 162 cm 全長: 318 cm(触腕含まず) 性別: メス	2016年2月4日	【漂着】鳥取市 十六本松海岸	死亡	【図4e】/腐敗が進み、眼球は消失。触腕は2本とも途中で切れた状態。口器および軟甲を山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館にて保管。		



図 1. 鳥取県沿岸域で記録された海洋動物（哺乳類）。日付は発見日ではなく写真撮影日，図 2～4 も同様。

- a: ミンククジラ（琴浦町 笠津海岸 [漂着]，2015 年 4 月 30 日），b: 同・右鰭部，
 c: ハナゴンドウ（鳥取市気高町 水尻海岸 [漂着]，2017 年 3 月 19 日），
 d: カマイルカ（境港市新屋町 弓ヶ浜海岸 [漂着]，2015 年 4 月 14 日／※ 1），
 e: オウギハクジラ（境港市新屋町 弓ヶ浜海岸 [漂着]，2014 年 3 月 26 日），f: 同・頭部，
 g: キタオットセイ（鳥取市気高町 [迷入]，2015 年 2 月 22 日），
 h: キタオットセイ（湯梨浜町 石脇海岸 [漂着]，2017 年 3 月 22 日／※ 3）。



図 2. 鳥取県沿岸域で記録された海洋動物（ウミガメ類）.

- a: アオウミガメ（米子市 夜見海岸 [漂着], 2015 年 4 月 8 日/※ 1),
 b: アオウミガメ（岩美町 東浜 [漂着], 2015 年 5 月 28 日),
 c: アオウミガメ（大山町 逢坂港付近 [漂着], 2016 年 9 月 4 日/※ 4),
 d: アオウミガメ（岩美町 浦富 大敷沖 [混獲], 2016 年 12 月 5 日),
 e: アオウミガメ（琴浦町 八橋海岸 [漂着], 2017 年 10 月 14 日/※ 1),
 f: アカウミガメ（琴浦町 赤碕港 [漂着], 2014 年 7 月 29 日/※ 5),
 g: アカウミガメ（鳥取市 気高町 姉泊海岸 [漂着], 2014 年 10 月 1 日),
 h: アカウミガメ（鳥取市 気高町 酒津海岸 [漂着], 2016 年 6 月 21 日/※ 2),
 i: タイマイ（琴浦町 八橋海岸 [漂着], 2015 年 2 月 11 日),
 j: ヒメウミガメ（米子市 夜見海岸 [漂着], 2014 年 2 月 12 日/※ 1),
 k: ヒメウミガメ（琴浦町 赤碕 菊港 [漂着], 2014 年 4 月 10 日).

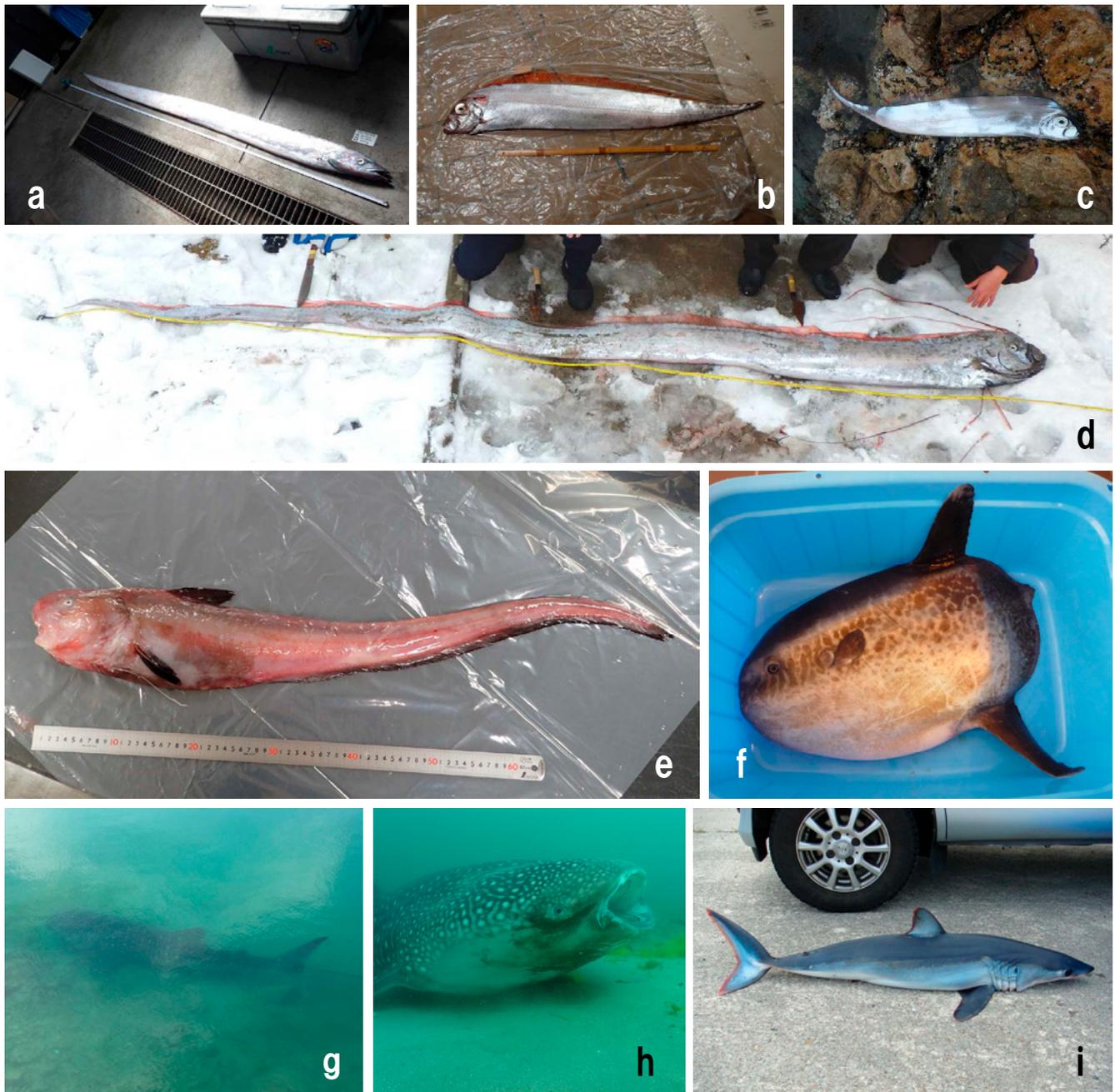


図3. 鳥取県および近隣域で記録された海洋動物（魚類）.

- a: ナガユメタチモドキ（隠岐海峡 [混獲], 2016年2月6日/※1),
 b: サケガシラ（鳥取市気高町八束水 [漂着], 2015年3月9日),
 c: サケガシラ（岩美町羽尾漁港付近 [漂着], 2017年5月9日),
 d: リュウグウノツカイ（鳥取市気高町浜村海岸 [漂着], 2016年1月26日),
 e: シャチブリ（米子市淀江 [混獲], 2017年12月21日: 冷凍保管していたものを解凍して撮影),
 f: ヤリマンボウ（岩美町浦富大敷沖 [混獲], 2017年1月7日),
 g: ジンベエザメ（鳥取市青谷町夏泊 [混獲], 2015年8月7日/※3), h: 同・頭部,
 i: アオザメ（岩美町浦富大敷沖 [混獲], 2017年6月11日).



図4. 鳥取県沿岸域で記録された海洋動物（ダイオウイカ）。

a: 鳥取市 青谷沖〔混獲〕（2014年1月21日）, b: 琴浦町赤碕〔漂着〕（2014年3月4日）,
c: 岩美町牧谷 吉田川河口〔漂着〕（2014年4月13日）, d: 岩美町 大羽尾海岸〔漂着〕（2015年1月6日）,
e: 鳥取市 十六本松海岸〔漂着〕（2016年2月5日）。

〔写真提供者〕 ※1: 鳥取県水産試験場, ※2: 鳥取市, ※3: 鳥取県栽培漁業センター, ※4: 白石泰志, ※5: 琴浦町教育委員会。 ※表記のないものは, 鳥取県立博物館もしくは山陰海岸学習館（現: 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館）による撮影。

海洋動物を発見し、情報等を提供していただいた近隣住民や漁業関係者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

■引用文献

- 一澤 圭・林 耕介・小笠原淳子・田島木綿子・上野真太郎・石原 孝・川上 靖・山田 格（2014）鳥取県沿岸と周辺海域で記録された海洋動物（2012年～2013年）—鯨類、鰐脚類、ウミガメ類、およびアカマンボウ目魚類について。鳥取県立博物館研究報告, 51: 59-65.
- Kaga, T., Van Oijen, M.J.P., Kubo, Y. & Kitagawa, E. (2015) Redescription of *Ateleopus japonicus* Bleeker 1853, a senior synonym of *Ateleopus schlegelii* van der Hoeven 1855, *Ateleopus purpureus* Tanaka 1915, and *Ateleopus tanabensis* Tanaka 1918 with designation of a lectotype for *A. japonicus* and *A. schlegelii* (Ateleopodiformes: Ateleopodidae). Zootaxa 4027 (3): 389-407.
- 川上 靖（2002）鳥取県沿岸に多数漂着したヤリマンボウ属（予報）とその他の漂着動物（2000年4月～2002年3月）。鳥取県立博物館研究報告, 39: 37-42.
- 川上 靖・平尾和幸・清末幸久（2004）鳥取県沿岸における漂着動物の記録（2002年4月～2003年12月）。鳥取県立博物館研究報告, 41: 1-8.
- 川上 靖・一澤 圭（2010）鳥取県沿岸に漂着した大型海洋動物（2008年～2009年）とウミガメ類の産卵記録。鳥取県立博物館研究報告, 47: 83-86.
- 川上 靖・一澤 圭（2012）鳥取県沿岸と周辺海域で記録された海洋動物（2010年～2011年）、および大型ヤリマンボウ。鳥取県立博物館研究報告, 49: 13-16.
- 川上 靖・一澤 圭・安藤重敏（2008）鳥取県沿岸に漂着した大型動物および漁獲された稀な動物の記録（2006年～2007年）。鳥取県立博物館研究報告, 45: 17-22.
- 川上 靖・清末幸久・一澤 圭・平尾和幸・安藤重敏（2006）鳥取県沿岸における漂着動物（2004年1月～2005年12月）とアカウミガメに付着していた暖海性紅藻類トゲキヌイトグサ *Antithamnion tanakae*。鳥取県立博物館研究報告, 43: 1-5.
- 河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安澤 弥・池田 怜・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎 淳・森 俊郎・長濱達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船木信一（2014）：日本海産魚類目録。山口県水産研究センター研究報告, (11), 1-30.
- 清末忠人（1987）鳥取県沿岸の漂着動物について（1）。鳥取生物, 21: 15-20.
- Kubodera, T., Wada, T., Higuchi, M. and Yatabe, A. (2016) Extraordinary numbers of giant squid, *Architeuthis dux*, encountered in Japanese coastal waters of the Sea of Japan from January 2014 to March 2015. Marine Biodiversity, doi:10.1007/s12526-016-0618-7.